

市町村名	竹富町													
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】														
事業番号・事業名	1-①		妊産婦支援事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章－2－(2)－イ					
									子育てセーフティネットの充実					
担当部課名	健康づくり課			事業実施(予定)年度	平成24～33年度			沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-4				
事業内容	妊婦が安心して出産が迎えられるよう、妊婦健康検診受診時の船舶及び航空機運賃並びに出産待機宿泊費について支援し、経済的負担軽減を図る。													
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)													
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()													
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況				25年度		26年度		27年度		28年度		29年度	
			(a)当初予算額		2,901		3,300		2,403		3,208		2,191	
			(b)予算現額		1,736		2,776		2,824		2,103		2,629	
			(c)増減額(b-a)		▲ 1,165		▲ 524		421		▲ 1,105		438	
			(d)繰越額		-		-		-		-		-	
			A. 計(b+d)		1,736		2,776		2,824		2,103		2,629	
			B. 執行済額		1,670		1,563		2,451		1,715		1,802	
			うち交付金充当額		1,336		1,250		1,960		1,372		1,441	
			次年度繰越額		-		-		-		-		-	
			執行率(%) (B/A)		96.2%		56.3%		86.8%		81.6%		68.5%	
			予算の状況の説明		・当初、出産待機宿泊費について、1日当たり3,000円の補助を行っていたが、県の宿泊基準額の増に伴い、1日当たり4,000円の補助と増額されたため、5号補正及び6号補正にて、計438千円の予算増となった。 ・不用額については、毎年度妊婦及び申請数は妊婦者の増減や個々の妊娠経過、体調等により渡航回数変動するため、予算残があったと考えられる。									
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況										
						26年度		27年度		28年度		29年度		
	・交通費支援			目 標	(60件)	(50件 350回)	(50人)		(55人)					
				実 績	48件		48件 377回		34人		43人			
	・宿泊費支援			目 標	(25件)	(20件 400日)	(20人)		(20人)					
				実 績	12件		26件 549日		18人		21人			
	達成状況説明		妊婦の経済的な負担軽減を図ることがおおむねできた考える。 交通費支援については、活動目標の55人が達成できていないが、宿泊費支援は目標を上回る結果となった。 今後も多くの妊婦が活用できるよう、周知や説明等の活動を充実させていきたい。											
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)				基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)					
	交通費支援55人 (基準年度 平成26年度:48人)			目 標	()	(妊娠中の母子に安心できる環境の確保)	(50人)		(55人)		()			
				実 績			目標達成		34人		43人			
	宿泊費支援20人 (基準年度 平成26年度:12名)			目 標	()	()	(20人)		(20人)		()			
				実 績					18人		21人			
	【H30成果目標】 渡航費支援が必要な人への支援率			目 標	()	()	()		()		100%			
	進捗状況説明		・妊産婦者数及び申請数は定数ではなく、妊婦者数の減や個々の受診等のための渡航回数が見込みを下回ったため、交通費支援については成果目標の55人に達することができなかった。 ・宿泊費支援については、目標を上回った。											

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・航空運賃が明記されない旅券(ホテルパック等)を利用する妊産婦が見受けられ、航空機運賃を補助できないという課題がある。 ・36週以前に出産し待機宿泊する妊婦は対象から外れているが、子が未熟児である場合、母親と一緒に退院できず、先に退院した母親は宿泊施設に滞在しながら病院に通うことになり、経済的、肉体的、精神的にも大きな負担となっているという課題がある。	・交付条件(区間・搭乗日・運賃等の明記がされた領収書の提出)の周知を徹底する必要がある。 ・早期に出産した妊婦に対する宿泊費補助を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
・転入した妊婦の方等へ、広報誌・町HPを介または、直接訪問等事業内容・交付条件の周知を徹底する。 ・早期出産した妊婦に対する宿泊費補助についても、詳細の実態をヒアリング等で把握し、可能であれば本事業の補助対象に含める。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>2,629</td><td>1,802</td><td>1,441</td><td>361</td><td>0</td></tr> </table> 竹富町 2,425千円 → 負担金、補助金及び交付金 2,425千円 → 妊婦 43人 806千円 妊婦 21人 1.619千円 妊婦健診運賃補助 43人 妊婦待機宿泊費補助 21人					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,629	1,802	1,441	361	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,629	1,802	1,441	361	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	-	支出先の選定方法は妥当か。	・予算規模については、例年の平均的な妊婦数により積算しているため適正規模と考える。 ・受益者の負担は、航空賃の20%と、1泊4,000円を超過した宿泊費分で、事業の目的に添う結果となっている。 ・費目・使途については、事業目的達成の観点から必要な額の額の確定時において支出に関する書類において確認。適正である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	竹富町									
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	1-②		健康診査用機材輸送事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章－3－(11)－イ	
担当部課名	健康づくり課			事業実施 (予定)年度	平成26～33年度			沖縄振興基本方針 該当箇所	離島における定住条件の整備	
事業内容	集団検診(住民健診・胃がん検診・婦人がん検診)時における検診車の海上輸送運賃の負担軽減を行い、健康診査受診の促進を図る。									
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)									
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況				26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
			(a) 当初予算額		3,620	3,840	3,840	3,894		
			(b) 予算現額		3,763	3,569	3,892	3,705		
			(c) 増減額 (b-a)		143	▲ 271	52	▲ 189		
			(d) 繰越額		0	0	-	-		
	A. 計 (b+d)		3,763	3,569	3,892	3,705				
	B. 執行済額		3,759	3,568	3,892	3,412				
	うち交付金充当額		3,007	2,854	3,113	2,729				
	次年度繰越額		0	0	-	-				
	執行率 (%) (B/A)		99.9%	100.0%	100.0%	92.1%				
	予算の状況の説明		見積入札により当初予算より減が生じたものの、適切な予算措置を実行できた。							
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況						
					26年度	27年度	28年度	29年度		
	検診機材搬送年3回実施 (検診3回×5島6地区=18件)			目 標	(18件)	(18件)	(18件)	(18件)		
				実 績	18件	18件	18件	18件		
				目 標	()	()	()	()		
				実 績						
達成状況説明	・住民健診、胃がん検診、婦人がん検診実施時に、石垣島より町内各島を經由し検診機材を貨物船にて運搬した。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)				基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)	
	3検診の総受診者数 2,134人			目 標	()	(1,600名)	(1,700人)	(2,134人)	()	
				実 績		2,070名	1,951人	1,417人		
				目 標	()	()	()	()	()	
				実 績						
	進捗状況説明	平成29年度総受診者数は、対象者の健康に対する意識向上が見受けられてきたこともあるが、検針日が1日のみであることが影響し、総受診者数は1,417人となり、目標を下回った。								

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・島嶼環境にある本町では、1日しか受診日を設けることができず、受診対象者が他の会場で受診する等の予備的な日程が確保され難いことから、受診率が低くなっているという課題がある。	・年間スケジュールの早期確定と広報誌・町HPを介した早期告知、周知を徹底する必要がある。
今後の取り組み方針		
・事業実施の前年度内に年間スケジュールを確定し、各種媒体による通知、各公民館へのスケジュール提供、診療所への提示等を行い、婦人がん検診等、他事業によって無料クーポンが発行される対象者については、早期に配布し受診勧奨を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
3,705	3,412	2,729	683	292

竹富町
3412千円

使用料及び
賃借料
3,364千円

→

沖縄県農業共同組合
3,364千円

役務費
48千円

→

(有)安栄観光
48千円

住民健診
婦人がん検診
胃がん検診
(5島6地区)

検診車の海上運搬費

資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・見積徴集による競争を行ったが、昨年度に引き続き同じ受託者となった。 ・予算規模は昨年度より減額されたが、適正な規模であったといえる。 ・費目・使途は検査により確認されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	竹富町									
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	1－③		竹富町お出かけサポートモデル事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章－1－(7)－ウ	
担当部課名	福祉支援課			事業実施 (予定)年度	平成26～30年度			沖縄振興基本方針 該当箇所	人に優しい交通手段の確保	
事業内容	高齢者及び障害者等の外出機会増加による、自立生活助長を図るため、予約制の送迎サービスをお出かけサポートモデル事業として、西表島西部及び東部地区にて実施する。									
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)									
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)	予算 の 状 況				26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
			(a) 当初予算額		5,000	3,000	8,500	6,000		
			(b) 予算現額		5,000	3,000	7,120	6,000		
			(c) 増減額 (b-a)		0	0	▲ 1,380	0		
			(d) 繰越額		－	－	－	－		
			A. 計 (b+d)		5,000	3,000	7,120	6,000		
			B. 執行済額		3,955	3,000	6,947	6,000		
			うち交付金充当額		3,164	2,400	5,557	4,800		
			次年度繰越額		－	－	－	－		
			執行率 (％) (B/A)		79.1%	100.0%	97.6%	100%		
			予算の状況の説明		運営管理委託を2者と契約し事業運営を行った。当初の計画通り適切に予算を執行できた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)				達成状況					
						26年度	27年度	28年度	29年度	
	送迎サービス西表島西部地区 及び東部地区				目 標	(送迎実施)	(送迎実施)	(送迎実施)	(送迎実施)	
					実 績	実施完了			実施完了	
	アンケート調査実施による 利用状況等の把握				目 標	()	(実施)	(実施)	(実施)	
					実 績		10件	未実施	未実施	
	達成 状 況 説 明	西表東部・西部地区2地区での実施ができた。利用登録者も107名と増加している。事業の必要性を検証するためのアンケート調査を実施することが出来なかった。								
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)					基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	年間利用者数見込み:延べ人数500人				目 標	()	(500人)	(500人)	(500人)	()
					実 績	372名			422名	1328名
	サービス提供エリアの拡張。				目 標	()	()	(サービスエ リア拡張)	(サービスエ リア拡張)	()
					実 績				西表東部地区 新規実施	西表西部・東部地 区 2地区で実施
	本格運行に向けた利用料金及び利用状況 の把握。				目 標	()	(利用料金及び 利用状況把握)	(利用状況把握)	(利用状況)	()
					実 績				1人当たり 利用料1回100円 年間平均8回利用	1人当たり年間 平均9回利用
	【H30成果目標】 利用者へのアンケートで、社会的孤立感の 解消が図れたかを含め、事業の在り方につ いて検証する。				目 標	()	()	()	()	80%以上
進 捗 状 況 説 明	・年間利用者数は、目標を達成した。 ・サービス提供エリアの拡張は、目標を達成した。 ・本格運行に向けた利用料金及び利用状況の把握は、目標を達成した。									

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・利用希望3日前までの予約制としているが、当日連絡による利用希望がある。予約状況等により委託機関が臨機応変に対応していただいているが、委託機関の負担がある。 ・基本運行時間は平日（8時30分～17時00分）としているが、船便等の都合で早朝や17時以降の利用希望者のニーズに対応が困難。	・利用者向けに、予約制度や基本運行時間の周知を徹底する。 ・委託機関の人員体制や送迎、事務内容等の状況把握を行い、運行時間・運行日の検討を行う。
今後の取り組み方針		
・利用者向けに、予約制度や基本運行時間の周知を訪問やチラシ等によって行い、徹底する。 ・利用者や委託機関へ意向・希望調査を実施し、今後の運行時間・運行日の検討をしていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>6,000</td><td>6,000</td><td>4,800</td><td>1,200</td><td>0</td></tr></table> 竹富町 6,000千円 → 委託料 3,000千円 委託料 3,000千円 → 特別養護老人ホーム 南風見苑 3,000千円 共同作業所 スオウの木 3,000千円 〔 運営管理委託業務 〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,000	6,000	4,800	1,200	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,000	6,000	4,800	1,200	0										
資金 使途の 流れ、 点検 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は実績、地域等を勘案し、規則に沿って選定し妥当であった。 ・見積書により予算積算は適正規模であった。 ・費目、使途については事業目的達成の観点から必要経費額の確定時において支出等に関する書類を検査し適当であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	竹富町							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1－④	竹富町民等船賃負担軽減事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(11)－ア				
担当部課名	政策推進課	事業実施(予定)年度	平成27～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	交通・生活コストの低減			
					Ⅲ－9			
事業内容	島々を結ぶ高速船の船賃をJR料金並みにすることで、竹富町民等の交通費に要していた負担を軽減し、生活の利便性を確保する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 □委託 □補助 ■負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	57,400	88,638	104,724			
		(b) 予算現額	69,600	108,696	114,244			
		(c) 増減額 (b-a)	12,200	20,058	0			
		(d) 繰越額	－	－	－			
		A. 計 (b+d)	69,600	108,696	114,244			
	B. 執行済額		58,668	93,573	96,777			
	うち交付金充当額		46,934	74,858	77,421			
	次年度繰越額		－	－	－			
	執行率 (%) (B/A)		84.3%	86.1%	84.7%			
予算の状況の説明		2月末日までを交付金対象とし、3月分は単費で対応。3月までの支出は105,950千円であり、執行率は93%のため適切に予算執行している。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度		
	地域住民等の高速船船賃の一部支援	目 標	(町民等の船賃の支援)	(船賃の一部支援)	(船賃の一部支援)	()		
		実 績	町民等の船賃の支援	船賃の一部支援	船賃の一部支援			
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
	達成状況説明	町民の生活に欠かせない高速船での移動にかかる船賃を一部支援し、負担軽減および生活の利便性向上へ繋がった。						
	成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (26年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
		対象航路の利用者数の増加 127,680人(基準年度H27)→134,000人(5%増) ※95,762人÷9か月×12か月＝127,682人	目 標	(89,407人)	(93,400人)	(125,200人)	(134,000人)	()
			実 績		95,762人	145,338人	147,133人	
【H30成果目標】 利用者へのアンケートで、利便性が確保されたかを含め、事業のあり方を検証する。		目 標	()	()	()	()	80%以上	
進捗状況説明		対象航路の利用者数は、本事業が町民に定着してきたことにより、目標を9.8%上回り、達成した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本事業の検査等において、町民が割引チケットを購入の際に記入した申請書を手作業で確認しているため、その確認に時間がかかるという課題がある。 ・各島にいるチケット販売担当者から、改善する部分があるかなど、現場の声をしっかりと事業に反映していく必要がある。	・現在の紙ベースのチケット購入申請から、システム導入へ切り替え、システム購入を可能とする必要がある。 ・島々へ足を運んだ際には積極的にチケット販売担当者と交流し、本社の担当者と同様に連携を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
・航路事業所の本社職員の意見だけではなく、各島のチケット販売担当者ともヒアリング等で連携を図りながら、システムの方向性を整え導入を検討する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位: 千円)						
		総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
		96,777	96,777	77,421	19,356	0

竹富町
96,777千円

負担金
96,777千円

八重山観光フェリー株式会社
45,240千円

有限会社安栄観光
45,792千円

石垣島ドリーム観光株式会社
5,549千円

有限会社船浮海運
196千円

竹富町民等
船賃負担軽減事業

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、町内に航路を有する全ての船会社であり、妥当といえる。 ○3月までの執行率は93%であり、適正だったといえる。 ○料金設定をJR料金並みとしているため、町民の利便性、公平性からも妥当といえる。 ○費目、使途については、町民の船賃負担軽減に必要なものに限定されていた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	竹富町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1－⑤	干立地区防災機能改善事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（3）－エ			
担当部課名	防災危機管理課	事業実施 （予定）年度	平成29～33年 度	沖縄振興基本方針 該当箇所	情報通信基盤の整備			
					Ⅲ－6			
事業内容	西表島干立地区の金座山に津波避難路を整備し、地域住民および滞在者の安全性と利便性を確保する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度（32年度）							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・ 執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	10,000					
		(b) 予算現額	9,828					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 172					
		(d) 繰越額	—					
		A. 計 (b+d)	9,828					
	B. 執行済額		9,828					
	うち交付金充当額		7,862					
	次年度繰越額		—					
	執行率（％）(B/A)		100.0%					
	予算の状況の説明		当初予定していた業務以外に環境調査業務を追加することとなったが、追加した業務内容が本交付金の補助対象となりえないことから、追加業務分については交付対象外経費として算出し、適切な予算執行を行った。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	環境等モニタリング調査業務実施	目 標	（ 業務実施 ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績	業務完了					
	工事基本設計業務実施	目 標	（ 業務実施 ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績	業務完了					
	測量基本調査業務	目 標	（ 業務実施 ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績	業務完了					
	達成 状況 説明	津波避難路は国有林・国立公園・天然記念物指定区域に隣接するため、各種法規制への対応が必要となることから、事前に関係機関協議を行った上で、測量・自然環境調査を実施した。次に、詳細な地形データや動植物の重要種の分布状況等を踏まえ、避難ルート案の比較検討を行い、避難路および避難誘導サイン等の基本設計を実施した。						
	成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	29年度	30年度	31年度
①モニタリング調査報告書の作成		目 標	（ ）	作成	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		完了				
②工事基本設計所の作成		目 標	（ ）	作成	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		完了				
③測量調査報告書の作成		目 標	（ ）	作成	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		完了				
【H32成果目標】 整備した避難路を活用した避難訓練を実施することにより、本事業のあり方について検証する。		目 標	（ ）		（ ）	（ ）	2回以上/年	
進捗 状況 説明		①②③最適な避難ルート案は植物重要種の伐採量が最も少ない現道活用案を採用した。避難路は起点側では既設石積階段の改良、終点側ではデッキ構造区間を新設することとした。これらの内容について、平成30年3月に干立公民館において地元説明会を行い、概ね了承を得た。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	① 拝所（ムトゥ御嶽）に配慮した実施設計・施工計画が必要 ② 植物重要種に配慮した実施設計・施工計画が必要 ③ 観光客等の一時滞在者を考慮した避難誘導環境が必要	① 拝所関係者との合意形成を図るため拝所関係者へ説明会を行う必要がある。 ② 植物重要種の詳細な植生調査が必要である。 ③ 地区内の動線を踏まえる必要がある。
今後の取り組み方針		
① 拝所関係者にヒアリングを行い、避難路の景観や構造及び幅員等に反映する。 ② 避難路周辺の詳細な植生調査を行い、施工手順や植物移植計画等に反映する。 ③ 地区内の動線を踏まえたわかりやすい避難誘導情報の検討と配置に反映する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>10,698</td><td>9,828</td><td>7,862</td><td>1,966</td><td>870</td></tr></table> 竹富町 9,828千円 委託料 9,828千円 八千代エンジニアリング 9,828千円 （千立地区防災機能改善調査委託業務） （改定増額分(交付対象経費) 870千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	10,698	9,828	7,862	1,966	870
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
10,698	9,828	7,862	1,966	870										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○ 業務追加により、予算額が増加したが、適切な予算執行であった。 ○ 費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	竹富町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1－⑥	複合型福祉施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(2)－イ			
担当部課名	福祉支援課	事業実施(予定)年度	平成27～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	子育てセーフティネットの充実			
事業内容	本町での、質の高い幼児期の学校教育・保育及び地域の子ども・子育て支援事業と、各地区の高齢者等を対象とした介護予防等の活動拠点となる福祉施設を竹富町各地区へ整備する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(31年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	9,500	17,700	5,472			
		(b) 予算現額	8,964	20,553	10,384			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 536	2,853	4,912			
		(d) 繰越額	—	—	—			
		A. 計 (b+d)	8,964	20,553	17,226			
	B. 執行済額		8,964	20,553	10,384			
	うち交付金充当額		7,171	16,441	8,307			
	次年度繰越額		—	—	—			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	60.3%			
	予算の状況の説明		事業計画の変更により、11,754千円増額を行ない、適切な予算執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	複合型福祉施設実施設計委託業務(波照間)の実施	目 標	(計画策定実施)	(実施)	()	()		
		実 績	計画策定完了	実施				
	複合型福祉施設基本設計委託業務(西表上原・西表東部)の実施	目 標	(業務実施)	(実施)	()	()		
		実 績	業務完了	実施				
	達成状況説明	複合型福祉施設整備計画7地区(波照間島、小浜島、西表上原、西表東部、西表西部、竹富島、黒島)全ての計画策定を終え、波照間島の実施設計委託業務と西表上原、西表東部の基本設計委託業務を完了した。3地区においては、住民説明会を通して、保育教育の環境の充実と高齢者福祉施設について各地区の住民意向の合意形成を図りながら事業を進めることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(31年度)
	・複合型福祉施設実施設計委託業務(波照間)の完了	目 標	()	(計画策定)	(完了)	()	()	
		実 績		計画策定完了	完了			
	・複合型福祉施設基本設計委託業務(西表上原・西表東部)の完了	目 標	()	(設計完了)	(完了)	()	()	
		実 績		設計完了	完了			
	【H31成果目標】子育て支援が充実したかを含め、当該施設のあり方についてアンケート調査により検証する。	目 標	()	()	()	()	80%以上	
	進捗状況説明	・波照間島地区においては実施設計を完了し、目標を達成した。 ・西表上原、西表東部地区においては基本設計が完了し、目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・東日本大震災の影響による津波に関する町民の不安を取り除くために「沖縄県津波浸水想定設定検討委員会」にて作成された資料に基づいた、竹富町防災マップの津波浸水予測を活用して安全性を説明するが、引き続き丁寧に説明していくことが必要である。 ・施設供用後の安定的な維持・管理形態を検討し、選択する必要がある。	・建物、立地についての安全性の説明とともに、防災訓練の実施等は防災危機管理課、近隣の学校、公民館と連携し施設整備以外の部分を今後の改善策に繋げたい。 ・多様な維持・管理形態の中から最適な形態を選択する必要がある。
今後の取り組み方針		
・地域住民、公民館、学校、防災危機管理課と連携し、防災意識の啓発を図り、不安の解消に努める定期的な防災訓練の計画をたてる。 ・公民館、NPO法人等への指定管理をはじめ、子育て支援関連や高齢者団体、サークル等あらゆる団体、個人での維持・管理形態を検討し、最適な形態を選択する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
17,226	10,384	8,307	2,077	6,842

竹富町
10,384千円

委託料
10,384千円

一級建築士事務所ティンアーキテツ
5,164千円

文科省負担分(交付対象外経費)
4,016千円

匠設計室
2,551千円

文科省負担分(交付対象外経費)
1,553千円

株式会社 東設計工房
2,669千円

文科省負担分(交付対象外経費)
1,273千円

波照間複合型福祉施設
実施設計委託業務

西表島東部複合型福祉施設
基本設計委託業務

西表島上原複合型福祉施設
基本設計委託業務

資金 使途の 流れ、 点検 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており妥当であったと考えている。 ○適切な予算執行であったと考えている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	竹富町									
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	1－⑦		竹富町緊急車両(消防車)導入事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章－2－(4)－イ	
担当部課名	防災危機管理課			事業実施 (予定)年度	平成28～29年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		災害に強い県土づくりと防災体制の強化	
事業内容	消防団の防災対応力強化を図るため緊急車両(消防車)を導入し、地域住民の生活向上と、今後さらに増加する観光入域者の安全・安心な観光環境の整備を図る。									
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(30年度)									
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況				28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
			(a) 当初予算額		40,000	38,200				
			(b) 予算現額		33,480	32,770				
			(c) 増減額 (b-a)		▲ 6,520	▲ 5,430				
			(d) 繰越額		－	－				
			A. 計 (b+d)		33,480	32,770				
			B. 執行済額		33,480	32,770				
			うち交付金充当額		26,784	26,216				
			次年度繰越額		－	－				
			執行率 (％) (B/A)		100.0%	100.0%				
			予算の状況の説明 入札残に伴い5,430千円を減額し、適切な予算措置で事業執行できた。							
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)				達成状況					
					28年度	29年度	30年度	31年度		
	緊急車両(消防車)の導入実施				目 標	(導入実施)	(導入実施)	()	()	
					実 績	導入完了	実施			
					目 標	()	()	()	()	
					実 績					
達成状況説明	導入するに当り、発注し6ヶ月以上係って、仕様書のとおり、緊急車両(消防車)を西表島上原地区へ導入できた。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)				基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (30年度)	
	緊急車両(消防車)の1台導入完了				目 標	()	(導入完了)	(導入完了)	()	()
					実 績		導入完了	導入完了		
	【H30成果目標】 避難訓練での利活用				目 標	()	()	()	()	1回／年
					実 績					
	進捗状況説明	西表島上原地区への緊急車両(消防車)の導入が完了した。								

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	購入後の車両使用時において、以前使用していた消防車のポンプ操作より複雑になっており、消防団員によって習得度にバラつきがあることが発覚した。	導入業者又は石垣市消防本部の消防隊員を招き、ポンプ操作説明会を行い、ポンプ操作の習得を図ることが必要である。
今後の取り組み方針		
消防団員がポンプ操作を正しく習得し、放水訓練等を繰り返すことにより、地域防災力の向上及び消防団の強化を推進していく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>32,770</td><td>32,770</td><td>26,216</td><td>6,554</td><td>0</td></tr></table> 竹富町 32,770千円 備品購入費 32,770千円 マチダテクノ株式会社 32,770千円 救急車両（消防車）導入					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	32,770	32,770	26,216	6,554	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
32,770	32,770	26,216	6,554	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本町は備品購入は入札に付することができないため、見積入札に付した。選定は妥当と考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は出たものの、消防器具等のオプション整備において必要経費を計上したものであり、予算規模は適正であったと考える。											
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成のために必要なものの購入を行っているので、正しかったと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	竹富町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2－①	観光誘客・受入対策事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ		
				観光客の受入体制の整備				
担当部課名	政策推進課	事業実施 (予定)年度	平成26～29年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－(1)		
事業内容	本町の滞在型観光を促進することを目的とした誘客宣伝活動及び受け入れ体制の強化・整備を実施する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	35,321	44,248	46,058	57,026		
		(b) 予算現額	43,243	33,865	44,307	48,753		
		(c) 増減額 (b-a)	7,922	▲ 10,383	▲ 1,751	▲ 8,273		
		(d) 繰越額	－	－	－	－		
		A. 計 (b+d)	43,243	33,865	44,307	48,753		
	B. 執行済額		41,739	26,902	44,306	48,689		
	うち交付金充当額		33,391	21,521	35,444	38,951		
	次年度繰越額		－	－	－	－		
	執行率 (％) (B/A)		96.5%	79.4%	100.0%	99.9%		
	予算の状況の説明		委託事業者「竹富町観光協会」事務局の人員不足による一部業務未執行のため、協議の上改定契約をして減額¥5,636,880、その他入札残等、減額補正。					
	活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度		
宿泊支援システムの運用(整備・充実)		目 標	(20事業者)	(10事業者)	(宿泊支援システム の運用実施)	(整備・充実)		
		実 績	7事業者	14事業者	運用・実施	運用・実施		
滞在型観光関連講義の実施		目 標	()	(講義12回)	(セミナー等開催)	(実施)		
		実 績		講義8回	講座・講義15回	星空関連講座5回		
誘客宣伝活動		目 標	(誘客13箇所)	(誘客宣伝6箇所)	(誘客宣伝6会場)	(5回)		
		実 績	誘客15箇所	誘客宣伝9箇所	誘客宣伝6か所	誘客宣伝5回		
観光振興基本計画の策定、基礎調査の実施		目 標	()	()	()	(策定 ・ 実施)		
		実 績				策定・実施		
達成状況説明		・誘客宣伝活動については、誘客よりも受入に重点をおくこととしたため前年度より少ない回数の実施となった。 ・滞在型観光関連講義については、1会場(西表島西部)にて星空関連講座を全5回を通して講義・テスト等を実施し、参加者を美ら星案内人に認定した。 ・観光振興基本計画については、策定審議委員会で審議し作成した計画(案)をH30年度6月定例議会に上程し、議決待ち。 ・波照間島基礎調査については、地域住民主体とした取り組みが好評、成果品「はてるまっぷ」もすでに全部数を配布し在庫なし。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況		H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度
	宿泊システムを導入した事業者数の増加 25事業者(基準年度H26年度:7事業者)	目 標	()	()	(25事業者)	()	()	
		実 績			21事業者			
	観光客誘致活動来場動員数8万人 (基準年度H26年度:6万人)	目 標	()	(来場数 8万人)	(来場数 8万人)	()	()	
		実 績		来場数8万人	来場数16.4万人			
	竹富町入域観光客数1,080,347人以上	目 標	()	(客数 115万人)	(客数 120万人)	(客数 1,080,347人)	()	
		実 績		客数115万人	客数107万人	客数1,079,635人		
	進捗状況説明	入域観光客数は微増に留まり、成果目標には届かなかった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・現状の基礎調査では、入域しない／滞在しない理由が統計結果として明らかにならず推論しかできていない。 ・基礎調査事業や観光振興基本計画策定事業内でのヒアリング・審議委員会では、観光客増による環境への影響や、観光客のマナーによる問題、近年増えているインバウンド観光客への対策不足を心配する意見が多くみられた。	・深掘りして探ることのできる手法を取り入れる。 ・地図や観光情報と合わせて、住民が観光客に守ってほしいマナーを周知し、観光振興と環境保全との両立及びインバウンド受入支援策を追加する。
今後の取り組み方針		
・従来の統計調査とは違った幅広い手法を用いた方向性探索事業を実施し、竹富町に「入域しない」「滞在しない」理由を探り、効果的なアプローチの仕方を明らかにする。 ・持続的な観光を目指し、ガイド事業者をとりまとめフィールドごとのルールを整理して、ガイド案内人登録条例（仮）の制定を目指し普及啓発をし、インバウンド観光客受入支援として、現状での地域事業者のニーズ・困りごとを把握し、必要な内容を実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
48,689	48,689	38,951	9,738	0

竹富町
48,689千円

旅 費
779千円

出張旅費

委託料
47,910千円

竹富町観光協会
35,036千円

竹富町観光誘客・
受入対策事業委託費

株式会社ライブス
8,662千円

波照間島基礎調査
事業委託費

(株)沖縄環境科学研究所
4,212千円

竹富町観光振興基本
計画策定事業委託費

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○竹富町観光協会は、町の唯一の観光協会であり総合的に業務を委託できることから随意契約とした。その他委託先については、それぞれプロポーザル方式、指名競争入札で選定した。 ○不要額はほとんど発生せず、予算は適正な規模であった。 － 竹富町観光協会は法人格を持たず、利益は発生しないため受益者ではないと考えられる。 ○完了報告時に、費目や使途を検査しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	竹富町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2－③	鳩間島野外ステージ周辺環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ			
担当部課名	まちづくり課	事業実施(予定)年度	平成２８～２９年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備			
事業内容	鳩間島に整備されている、鳩間島野外ステージ周辺に、出演者等控室及び公衆トイレを整備し、当該施設の利便性向上及び鳩間島を訪れる観光客や各種イベント使用時の出演者及び来場者の利便性の確保を図る。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(30年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,800	43,957				
		(b) 予算現額	918	44,570				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 882	613				
		(d) 繰越額	－	－				
		A. 計 (b+d)	918	44,570				
	B. 執行済額		918	41,229				
	うち交付金充当額		734	32,982				
	次年度繰越額		－	－				
	執行率（％）(B/A)		100.0%	92.5%				
予算の状況の説明		建築工事に係る渡航費の協議により補整予算にて613千円を起債にて増額した。						
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	出演者等控室及び公衆トイレの工事	目 標	()	(実施)	()	()		
		実 績		実施				
	【参考】施設設計委託業務の実施	目 標	(業務実施)	()	()	()		
		実 績	業務実施					
	【参考】地域住民との施設配置等の協議	目 標	(協議実施)	()	()	()		
		実 績	協議実施					
	達成状況説明	出演者等控室及び公衆トイレの工事 設計にあたっては地域住民との話し合いを交えて行うことにより、三者(竹富町・設計業者・地域住民)の意見を取り入れた。 工事実施にあたっては、竹富町・館長・設計監理・建築・設備と協議のうえ設計変更を行った。						
	成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度
出演者等控室及び公衆トイレの整備完了		目 標	()	()	(完了)	()	()	
		実 績			完了			
【参考】施設設計完了 地域住民との施設配置等の協議完了		目 標	()	(設計完了 協議完了)	()	()	()	
		実 績		設計完了 協議完了				
【H30年度成果目標】 出演者及び来場者に利便性が確保されたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する。		目 標	()	()	()	()	80%以上	
		実 績						
進捗状況説明		平成29年度建築工事実施完了。建築工事の実施にあたり鳩間島は冬季欠航の多い地域であり早期着手が必要であり工期内での完成が必要であった。工事着手後工程のとおり工事を実施することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・トイレ等を整備したことにより、観光客・地域住民等の利便性が確保されたかを検証する必要がある。	・アンケート調査を行う。
今後の取り組み方針		
・観光客・地域住民等に利便性が確保されたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>43,929</td><td>41,229</td><td>32,982</td><td>8,247</td><td>2,700</td></tr></table> 竹富町 43,929千円 委託料 918千円 井上デザイン設計 918千円 監理設計委託業務 工事費 43,011千円 株式会社 屋建設 31,746千円 株式会社 大三電設 11,265千円 建築工事 設備工事					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	43,929	41,229	32,982	8,247	2,700
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
43,929	41,229	32,982	8,247	2,700										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○積算額と落札額に開きがあったため、不用額は大きくなったが企業努力による落札額であったと考える。予算規模は適正な規模であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	竹富町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2－④	西表浦内観光施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ			
					観光客の受入体制の整備			
担当部課名	まちづくり課	事業実施 (予定)年度	平成２４～３０年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－１－(1)			
事業内容	西表島の大自然を、多くの観光客に味わってもらいながら、安心・安全で快適な観光ができることを目的とし、遊歩道等の整備を行う。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(31年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	25,000					
		(b) 予算現額	24,840					
		(c) 増減額 (b-a)	▲160					
		(d) 繰越額	－					
		A. 計 (b+d)	24,840					
	B. 執行済額		24,840					
	うち交付金充当額		19,872					
	次年度繰越額		－					
	執行率（％）(B/A)		100.0%					
	予算の状況の説明		当初予算からの減額は入札残であり、事業内容を遂行し、適切な予算であった。					
	活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度		
遊歩道及び東屋整備(1工区)		目 標	(実施)	()	()	()	()	
		実 績	実施					
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
達成 状況 説明		本年度予定していた遊歩道及び東屋の整備を計画通り行うことができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況		H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度
	・H31年5月の供用開始に向けた事業の着 実な実施 (遊歩道、東屋の完了)	目 標	()	(完了)	()	()	()	()
		実 績		完了				
	【H30成果目標】 観光客へのアンケートで利便性が確保され たか(80%以上)を含め、当該施設のあり方 を検証する。	目 標	()	()	()	()	80%以上	
		実 績						
	進 捗 状 況 説 明	本年度予定していた遊歩道及び東屋の整備を計画通り行うことができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・遊歩道はあるが未舗装な為土砂の流出があり歩行に支障をきたしていること、便所がないことが課題である。 ・工事資材の運搬にかなりの時間を要した。	・観光客が安心・安全で快適な観光が出来るよう遊歩道及び併せて便所の整備等が必要である。 ・工事資材などの運搬及び作業事態が人力作業によるもので、工事の早期発注に務める。
今後の取り組み方針		
・便所の整備やマリユドウの滝への降りるデッキ設置などの整備を行う。 ・早期発注のため、計画的に進める。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>24,840</td><td>24,840</td><td>19,872</td><td>4,968</td><td>0</td></tr></table> 竹富町 24,840千円 工事費 24,840千円 栄進建設(株) 24,840千円 浦内遊歩道及び東屋 整備工事					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	24,840	24,840	19,872	4,968	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
24,840	24,840	19,872	4,968	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負業者は指名競争入力で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は適正な規模であった。 ○費目、使途については目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	竹富町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2－⑤	西表東部公園整備事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－１－(6)－ア			
					観光リゾート産業の振興			
担当部課名	まちづくり課	事業実施 (予定)年度	平成29～31年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－１－(1)			
事業内容	地域においてワークショップを行い、住民、児童達の要望を取り入れ、ヤマネコをモチーフとしたすべり台、ボルタリング等の遊具の整備やスポーツ広場、健康広場、駐車場、休憩所、便所等の整備を行い、地域住民の福祉の向上を図る。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度（34年度）							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	12,965					
		(b) 予算現額	12,030					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 935					
		(d) 繰越額	0					
		A. 計 (b+d)	12,030					
	B. 執行済額		11,612					
	うち交付金充当額		9,288					
	次年度繰越額		0					
	執行率（％）(B/A)		96.5%					
予算の状況の説明		当初予算からの減額935千円は入札残であり、事業内容を遂行し、適切な予算であった。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
			29年度	30年度	31年度	32年度		
	公園整備基本設計作成	目 標	（ 作成実施 ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績	作成実施					
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績						
達成 状況 説明	公園基本設計においては、地域住民とのワークショップも行い基本設計を実施した。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値 （ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値 （34年度）	
	西表東部公園整備基本設計の完了	目 標	（ ）	（ 完了 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		完了				
	【H34成果目標】 施設利用者満足度（80％）を含め、当該施設 の在り方をアンケートで検証する。	目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	80％以上	
	進 捗 状 況 説明							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ワークショップで「幅広い年齢に対応できる公園」という要望があがった。	・「幅広い年齢に対応できる公園」という要望を組み入れた基本設計にした が、予想以上に事業費が膨らんでいることから、実施設計時において、施設の規模や遊具などの数の検討を行う。
今後の取り組み方針		
・H30年度において、計画内にある私有地の買収を行い、ワークショップの意見を十分に活かした、お年寄りから児童、幼児までが利用出来るような内容での公園の実施設計を行う。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>11,611</td><td>11,611</td><td>9,288</td><td>2,323</td><td>0</td></tr></table> 竹富町 11,611千円 委託料 11,611千円 (株)興洋 エンジニアリング 11,611千円 西表東部公園基本計画設計業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	11,611	11,611	9,288	2,323	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
11,611	11,611	9,288	2,323	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は適正な規模であった。 ○費目、使途については目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	竹富町								
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】									
事業番号・事業名	2－⑥		加屋真島観光関連事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ			
						観光客の受入体制の整備			
担当部課名	まちづくり課		事業実施 (予定)年度	平成２９～３２年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－(1)		
事業内容	加屋真島は小浜島沖に位置し、観光ダイビングやキャンプ等のスポットとして活用しているが、船着き場が簡易的なものであり、今後の観光客誘客を図るために棧橋等の施設整備を行う。今年度は、測量及び土質調査、磁気探査、潜水探査を実施する。								
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度（34年度）								
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）								
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度		
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	21,000						
		(b) 予算現額	20,520						
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 480						
		(d) 繰越額	－						
		A. 計 (b+d)	20,520						
	B. 執行済額		20,520						
	うち交付金充当額		16,416						
	次年度繰越額		－						
	執行率（％）(B/A)		100.0%						
	予算の状況の説明		事業の初年度予算としては、事業内容を遂行し、適切な予算であった。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）			達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度		
	測量及び土質調査、磁気探査、潜水探査の実施	目 標	(実施)	()	()	()	()		
		実 績	実施						
		目 標	()	()	()	()	()		
		実 績							
	達成状況説明	当初は、土質調査、磁気探査及び潜水探査を予定していたが、船着場の位置の検討が必要になり、業務内容を変更し船着場の位置の検討を行う設計業務を行った。							
	成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (年度)
		測量及び土質調査、磁気探査・潜水探査の完了	目 標	()	(測量等の完了)	()	()	()	()
			実 績		完了				
【H34成果目標】 加屋真島観光入域客数		目 標	()	()	()	()	2,700人以上		
		実 績							
進捗状況説明		当初は、土質調査、磁気探査及び潜水探査を予定していたが、船着場の位置の検討が必要になり、業務内容を変更し船着場の位置の検討を行う設計業務を行ったため、H29年度での岩礁破碎等の同意取り付けの必要がなくなり、次年度以降に同意取り付けを行う。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・サンゴ礁調査移設業務を行うことにより、サンゴ礁生態系や今後の観光に悪影響を及ぼさないよう、航路浚渫の位置を選定検討する。	・サンゴ礁調査移設業務を行うことにより、航路の位置の検討も必要になる。
今後の取り組み方針		
・H30年度において、サンゴ礁調査移設業務を早い時期に行い、H31年度から工事着工が出来るよう航路の位置を決定する。更に土質調査の位置を確定し関係する漁業協同組合の岩礁破碎等の同意取り付けを同時に進行させ、実施設計及び磁気探査・潜水探査業務を併せて行う。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>20,520</td><td>20,520</td><td>16,416</td><td>4,104</td><td>0</td></tr></table> 竹富町 20,520千円 委託料 20,520千円 (株)沖縄土木設計 コンサルタント 20,520千円 加屋真島船着場土質 調査・磁気探査及び 測量委託業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	20,520	20,520	16,416	4,104	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
20,520	20,520	16,416	4,104	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は初年度としては、適正な規模であった。 ○費目、使途については目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	竹富町									
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	3－①		児童生徒派遣費支援事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章－3－(3)－ウ	
担当部課名	教育委員会教育課			事業実施(予定)年度	平成24～33年度			沖縄振興基本方針該当箇所	多様な情報系人材の育成・確保	
事業内容	小・中学校児童生徒のスポーツ等各種大会への派遣費を支援し、負担軽減や各種大会等での貴重な体験経験を活かした人材育成により、沖縄本島と離島の格差是正を図る。									
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(年度)									
実施方法	□ 直接実施 □ 委託 ■ 補助 □ 負担 □ その他 ()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,237	3,503	4,038	3,900	3,849			
		(b) 予算現額	4,109	5,504	4,038	3,591	5,983			
		(c) 増減額 (b-a)	1,872	2,001	0	▲ 309	2,134			
		(d) 繰越額	0	0	0	－	0			
		A. 計 (b+d)	4,109	5,504	4,038	3,591	5,983			
	B. 執行済額		3,780	5,122	2,917	2,835	4,219			
	うち交付金充当額		3,024	4,097	2,333	2,246	3,375			
	次年度繰越額		0	0	0	－				
	執行率 (％) (B/A)		92.0%	93.1%	72.2%	78.9%	70.5%			
予算の状況の説明		・当初予定していた、補助額より多くの申請があり、補正により2134千円増額した。 ・書類不備等により遅延が生じたため、年度内での支出ができなかった。その為、事業執行率が低くなった。 ・本事業は、随時申請を受ける執行体制を立てているため、ある程度の予算執行予定額は出すことが出来るが、確実に予算どおりに執行することが難しいとされる。								
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況						
				26年度	27年度	28年度	29年度			
	児童生徒選手等派遣人数:596人	目 標	(派遣費助成)	(派遣費助成)	(派遣費助成)	(596人)				
		実 績	派遣費助成	派遣費助成	派遣費助成	653人				
		目 標	()	()	()	()				
		実 績								
達成状況説明	町内児童生徒のスポーツ大会等における派遣費を、653人助成することが出来た。 児童生徒各家庭の経済的負担が軽減されることで、多くの大会等に参加でき、その頑張りがスポーツ大会等での好成績に繋がっている。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)		
	1. 本島と離島との格差是正を図り、また、より多くの児童生徒同士の交流が図れるよう参加環境を整える。 2. 本町の児童生徒が全国大会等でも参加できるよう環境を整える。	目 標	()	()	()	(環境の整備)	()			
		実 績				環境の整備の完了				
	【参考指標】 児童生徒選手等派遣人数	目 標	()	(470人)	(470人)	()	()			
		実 績		498人	572人					
	【H30成果目標】 申請した保護者へのアンケートで、児童・生徒が島内ではできない経験をする事ができたとの回答割合(80%以上)を含め、本事業のあり方を検証する。	目 標	()	()	()	()	80%以上			
		進捗状況説明	スポーツ大会や文化コンクールの積極的な参加出場が増えており、目標を大きく超え参加環境を整えることができたとともに、本事業による旅費負担の軽減が図られたことで、事業の目的である保護者の負担軽減や大会を通じた人材育成に大きくつながった。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・沖縄振興特別推進交付金による竹富町児童生徒の町外派遣に関する補助金交付要綱をH29の改正により、多くの児童生徒が対象となったが、大会等の開催時期や参加人数の把握、予算計上が難しいという課題がある、 ・補助申請や実績報告の書類提出時に誤りが多く、差替え作業にも時間を要した。	・学校各団体等へ事前に派遣計画書の提出を依頼し、それに基づき予算の計上をする予定である。 ・件数が増加することにより書類作成時の誤りや提出時の不備が懸念される為、派遣計画書に基づき該当年度分で一括申請をし、大会終了時ごとに概算請求で支出する予定である。
今後の取り組み方針		
・学校各団体等へ事前に派遣計画書の提出を依頼し、それに基づいた予算の計上に取り組んでいく。 ・事業の適正な執行体制の構築が必要であるため、今後も補助金交付要綱等の見直しや、学校、地域とも連携し、これまで以上に円滑に対応できるよう努める。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>4,219</td><td>4,219</td><td>3,375</td><td>844</td><td>0</td></tr></table> 竹富町児童生徒派遣費支援事業 4,219 千円 補助金 4,219千円 小学校 197名 725千円 中学校 456名 3,494千円 大会等旅費に係る補助					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,219	4,219	3,375	844	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,219	4,219	3,375	844	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	－	支出先の選定方法は妥当か。	・予算については不測の事態によって不用額が生じたが、適正な予算規模であったと考える。 ・助成対象者との関係は規則に沿って支出しているため、妥当であると考ええる。 ・支出先の生徒(学校)等には、提出書類等进行检查しているため費目・使途について適正である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	竹富町						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3－②	学校ICT支援員派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア		
担当部課名	教育委員会教育課	事業実施(予定)年度	平成26～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	児童・生徒の学習意欲等の向上を目指し、教育用PC・電子黒板・タブレットPC等のICT機器を効果的に活用した分かりやすい授業の実現を支援するため、各小中学校へICT支援員を派遣する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,739	5,448	5,884	5,884	
		(b) 予算現額	6,739	5,876	5,885	3,244	
		(c) 増減額 (b-a)	0	428	0	▲ 2,640	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	6,739	5,876	5,885	3,244	
	B. 執行済額		4,406	5,874	5,875	3,244	
	うち交付金充当額		3,525	4,699	4,699	2,594	
	次年度繰越額		0	0	—	—	
	執行率 (%) (B/A)		65.4%	100.0%	99.8%	100%	
予算の状況の説明		指名競争入札の結果、当初予算額から大幅に減額となった。12月議会において2,640千円の予算減額を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	各学校、月に1回の派遣	目 標	(派遣実施)	(派遣実施)	(派遣実施)	(派遣実施)	
		実 績	派遣実施	派遣実施	派遣実施	派遣実施	
	ICT支援員による教職員向け研修 小中学校13校×2回	目 標	()	(研修26回)	(研修26回)	(研修26回)	
		実 績		13回	156回	166回	
	達成状況説明	派遣実施計画を作成し、各校へ年間で11～13回派遣することができた。冬季は、海上交通の欠航が多く、日程の変更もあったが、安定して派遣することができた。 研修会については、校内研修会における研修会が5回、各校訪問時の個別研修が派遣回数と同数の161回となり、計166回であった。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	2日に1回以上授業でICT機器を使用する教職員数:80%以上	目 標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実 績		73%	84%	92%	
	ICT機器を活用した授業がわかりやすいと答えた割合:80%以上(児童生徒)	目 標	()	()	()	(80%)	()
		実 績				97%	
	ICT機器習熟度:80%以上(教員)	目 標	()	()	()	(80%)	()
		実 績				96%	
進捗状況説明	・ICT機器の利用調査を実施した結果、回答した学校において2日に1回以上授業でICT機器を活用する教職員の割合は92%となり目標値を大きく上回る結果となった。 ・授業を行う教員及び、児童生徒へアンケートを実施した結果、ICT機器を使用した授業がわかりやすいと回答した児童生徒は100%に近い数字となり、また、ICT機器を活用した授業ができたと回答した教員も同等の数字となっている。 ・教員に対し「ICT支援員が派遣されたことによりICT機器の活用頻度に変化があったか」という問いに対し、ほぼ100%の教員が増えたと回答している。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・学校訪問時に効率的に支援ができるように、事前に依頼内容を把握する必要がある。 ・5年計画で次年度最終年となるが、学校現場からは継続の要望が多くあり、事業の延長も含め、協議する必要がある。	・各校訪問時に、効率的に支援ができるように、支援員来校時までに依頼したい内容をまとめた『ICT支援員業務依頼表』を各校に作成してもらう。 ・学校現場や教育委員会と協議を行う必要がある
今後の取り組み方針		
・来校時の支援業務の効率化を図るために各校へ『ICT支援員業務依頼票』を作成してもらい、支援員来校時にはこれに沿った支援を行う。 ・事業継続するのか、学校現場や教育委員会内で協議する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>3,243</td><td>3,243</td><td>2,594</td><td>649</td><td>0</td></tr></table> 竹富町 3,243千円 → 委託料 3,243千円 → (株)オキジム 3,243千円 ICT支援員派遣 町内全小中学校13校					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,243	3,243	2,594	649	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,243	3,243	2,594	649	0										

資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先の選定に当っては、指名競争入札で選定しており、実績のある企業であるため妥当であるとする。 ○入札の結果大幅な減額となったが、予算減額を行い適正な規模であった。 ○費目、使途については目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	竹富町										
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	3－③		外国語指導助手派遣事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章－5－(4)－ア		
担当部課名	教育委員会教育課			事業実施(予定)年度		平成27～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所		国際社会、情報社会に対応した教育の推進	
事業内容	生きた外国語や外国文化・生活に触れる機会を提供し、外国語によるコミュニケーション能力の向上と国際感覚の養成を図る。										
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)										
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況				27年度	28年度	29年度	30年度	31年度		
			(a) 当初予算額		4,176	4,503	4,182				
			(b) 予算現額		4,175	4,181	4,182				
			(c) 増減額 (b-a)		▲ 1	▲ 322	0				
			(d) 繰越額		—	—	—				
			A. 計 (b+d)		4,175	4,181	4,182				
	B. 執行済額		4,160	4,178	4,178						
	うち交付金充当額		3,328	3,342	3,342						
	次年度繰越額		0	—	—						
	執行率 (%) (B/A)		99.6%	99.9%	99.9%						
	予算の状況の説明		適切な予算執行ができたと考えている。								
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)				達成状況						
					27年度	28年度	29年度	30年度			
	外国語指導助手の派遣 小学校11校、幼稚園3園				目 標	(150回)	(外国語指導助手の派遣)	(外国語指導助手の派遣)	()		
					実 績	135回	外国語指導助手の派遣	外国語指導助手の派遣			
	【参考指標】 担当教諭によるアンケート調査実施 (児童のコミュニケーション能力向上の把握)				目 標	()	(アンケートの実施)	()	()		
					実 績		アンケートの実施				
達成状況説明	・船舶の欠航があり、学校へ派遣できないこともあったが、テレビ電話会議システムを活用して、授業数150回を達成した。										
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)					基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)	
	幼稚園：初歩的な外国語を聞き、まねることができる。 小/低学年：初歩的な外国語を聞き理解することができる。 小/中学年：初歩的な外国語を聞き理解し、答えることができる。 小/高学年：初歩的な外国語の運用(質問したり、答えたり)ができる。 担当教諭によるアンケート調査によって、児童のコミュニケーション能力の向上について検証を図る。			目 標	()	(児童に対するアンケート目標達成80%)	(アンケート完了)	(各年代、「よくできた・だいたいできた」と回答する率80%以上)	()		
				実 績		85%	アンケート完了	100%			
	小学校11校への派遣完了			目 標	()	()	(派遣完了)	()	()		
				実 績			派遣完了				
	【H30成果目標】 児童生徒の外国語への興味・関心が高まったかを含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。			目 標	()	()	()	()	80%以上		
	進捗状況説明	当初の計画通りに事業が執行でき、目標を達成できた。									

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	①地域行事等への参加学習などもあることから、学期ごとにスケジュールを組むことで、各学校に受け入れ態勢を調整しているが、直前になっての学校側からのスケジュール変更が多々あった。ALTの授業準備等の兼ね合いから、変更が極力ないような訪問計画の作成が課題である。 ②訪問する島によって、帰りの船便がALTの勤務時間を越えてしまう現状があるので、勤務時間を超えた分は代休として、別日にとってもらうことにした。 ③ALTにより指導方法が異なり、児童が戸惑っている。学校ごとに固定できないかと担当教諭より要望があった。	①事前に各学校から受け入れ可能日を記した月ごとのカレンダーを提出してもらい、それを元に訪問計画を作成することで、極力日程の変更がないようにする。 ②学校の希望に沿う時間帯で授業にはいると、どうしても帰りの船の時間は勤務時間をこえてしまうことがあるので、今後も代休で対応していく。 ③ALTを学校ごとに固定、もしくは指導方法の統一性が必要。
今後の取り組み方針		
①各学校から月ごとの受け入れ日カレンダーを作成してもらい、訪問計画を作成しスムーズな訪問ができるよう取り組む。 ②ALTの時間外勤務については、これまで同様、代休で対応していく。 ③ALTの学校ごとの固定または、ALT同士での意見交換会を検討する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>4,178</td><td>4,178</td><td>3,342</td><td>836</td><td>0</td></tr></table> 竹富町 4,178千円 共済費 578千円 個人（1名） 578千円 （社会保険料負担金、雇用保険料負担金） 賃金 3,600千円 個人（1名） 3,600千円 （外国語指導助手（ALT）にかかる非常勤職員賃金）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,178	4,178	3,342	836	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,178	4,178	3,342	836	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○外国語指導助手（ALT）の選定に当たっては、日本及び沖縄の文化、生活様式をしっかりと理解しており、また教育についても高い能力を有している人物である。 ○積算内容及び単価などは事業目的に即した内容・規模となっている。 ○委託業務については、契約書のとおり実施されており、検査により、事業目的に必要な費目・使途である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		竹富町					
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3－④		芸術文化体験事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－（2）－イ	
						生涯学習社会の実現	
担当部課名	教育委員会教育課		事業実施 （予定）年度	平成27～31年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-（1）
事業内容	離島・へき地である本町において、普段の生活圏におけるクラシック音楽等の鑑賞機会は極端に少ない。本町各離島においてクラシックコンサートを開催し、地域の子どもからお年寄りまでがその文化体験をすることにより、生涯教育の推進と町民生活の質の向上を図る。						
効果発現年度	□当年度 □後年度（ 年度）						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,965	3,965	3,965		
		(b) 予算現額	3,965	4,840	3,382		
		(c) 増減額 (b-a)	0	875	▲ 583		
		(d) 繰越額	－	－	－		
		A. 計 (b+d)	3,965	4,840	3,382		
	B. 執行済額		3,957	4,545	3,382		
	うち交付金充当額		3,165	3,635	2705		
	次年度繰越額		－	－	－		
	執行率（％）(B/A)		99.8%	93.9%	100%		
予算の状況の説明		実績報告書の提出により精算を行ったため、583千円の減額が生じた。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	黒島でのクラシックコンサートの開催	目 標	（ コンサート開催 （西表島） ）	（ コンサート開催 （小浜島） ）	（ コンサート開催 （黒島） ）	（ ）	
		実 績	コンサート開催	コンサート開催	コンサート開催		
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績					
達成 状況 説明	黒島でコンサートを実施した。						
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値 （ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （ 年度）
	黒島クラシックコンサート開催での参加者 200名	目 標	（ ）	（ 200名 ）	（ 100名 ）	（ 200名 ）	（ ）
		実 績		394名	200名	150名	
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績					
進 捗 状 況 説 明	目標とした200名には及ばなかったが、黒島の人口は200名余であることから、島内外から150名の参加があったことは評価できる。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・成果目標の200名に達しなかったのは、島外への周知不足が原因である。	・町広報誌やホームページ、ポスター等を活用し、島外からの参加人数増加に向けた周知を徹底する。
今後の取組み方針		
・30年度は、周知を徹底し、同様の目的で沖縄県が行う地域クラシックコンサート事業を活用して、プロのオーケストラによるコンサートを行う。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>3,382</td><td>3,382</td><td>2,705</td><td>677</td><td>0</td></tr></table> 竹富町 3,382千円 → 委託料 3,382千円 → 石垣フィルハーモニー管弦楽団 3,382千円 （芸術体験委託業務）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,382	3,382	2,705	677	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,382	3,382	2,705	677	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・本事業は専門的かつ特殊な事業内容であり、郡内圏域において他に団体が存在しないことから随意契約とした。選定は妥当と考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は、専門的な内容と離島という地理的事業により機材の輸送等を考慮すると人的支援及び会場設営に係る経費を検討しなければならない。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目、使途については、事業目的の達成の観点から必要か否かについて支出書類を確認し、適正であること、また、契約書、仕様書のとおり実施されており、事業終了後の検査にも合格していることから適正であると考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	竹富町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3－⑤	家庭学習支援モデル事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(11)－イ		
担当部課名	教育委員会教育課	事業実施（予定）年度	平成29～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上		
事業内容	小中学生を対象に質の高い学習方法を子供たちへ提供するため、学校8拠点においてWeb会議システムを用いたオンライン双方向授業を行う「町営学習塾」を開設する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	40,804					
		(b) 予算現額	40,804					
		(c) 増減額 (b-a)	0					
		(d) 繰越額	0					
		A. 計 (b+d)	40,804					
	B. 執行済額		38,253					
	うち交付金充当額		30,602					
	次年度繰越額		0					
	執行率（％）(B/A)		93.7%					
予算の状況の説明		事業実施の結果、実績額が予算より低くなり、不用額が2,551千円となった。しかし、執行率は約94%となり適切な執行であった。						
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）			達成状況				
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	町営学習塾の実施	目 標	(学習塾の実施)	()	()	()	()	
		実 績	学習塾の実施					
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
達成状況説明	8拠点中7拠点において、町営学習塾を実施することができた。 前年度まで沖縄県が実施していた実証事業ということもあり、継続して受講してくれる生徒や、現場支援員が確保できた。 また、広報誌やチラシにて広報を行い、新規の児童生徒を確保できたことも要因となっている。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値（30年度）
	学習塾受講率（中学生） H29年度 60%	目 標	()	(60%)	()	()	()	
		実 績		36%				
	学習塾受講率（小学生） H29年度 60%	目 標	()	(60%)	()	()	()	
		実 績		38%				
	【H30成果目標】 町営塾で実施される年に3回の月例テストにおいて、全国と本町の平均点の差	目 標	()	(60%)	()	()	マイナス13点以内	
		実 績		38%				
進捗状況説明	部活動や、地域行事等を優先する傾向があり、塾へ参加する児童生徒は目標である60パーセントを下回ってしまった。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・受講数が目標値より低くなってしまったのは、部活動等を優先していることが原因と考えられ解消する必要がある。 ・受講生募集のPRを強化する必要がある。	・部活動と町営塾の時間が重なり、参加したくても参加できないという現状については、学校と部活動の休日設定について協議し、部活動が休みの日を町営塾開講の日とするなどの取り組みを行う必要がある。 ・地域との連携も行い説明会の実施や、広報協力依頼などを実施する必要がある。
今後の取り組み方針		
・学校と協議を行い、町営塾の開講日を調整する。 ・受講生の募集を随時行い、多くの児童生徒に活用してもらえるように、町営塾の周知広報の徹底、説明会を実施し、学校や地域との連携を強化し、地域に根ざした町営塾を運営する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金 充当額</td><td>市町村 負担金</td><td>交付対象 外経費</td></tr><tr><td>38,253</td><td>38,253</td><td>30,602</td><td>7,651</td><td>0</td></tr></table> 竹富町 38,253千円 → 委託料 38,253千円 → (株)フィオレ・コネクション 38,253千円 町営塾の開講					総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	38,253	38,253	30,602	7,651	0
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
38,253	38,253	30,602	7,651	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者選定については、随意契約であるが、本事業の特殊性ゆえ業者が限定されるため、沖縄県の実証事業での実績のある企業を選定した。 ○若干の不用額が発生したが、適切な予算規模であった ○本事業において検査を実施し、費目・使途は適切であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	竹富町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3－⑥	学校ICT環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－(2)－ア			
					教育機会の拡充			
担当部課名	教育委員会教育課	事業実施 (予定)年度	平成28～29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－3－(1)			
事業内容	わかりやすく深まる授業の実現と、教育の質を向上させることを目的とし、ICT機器(電子黒板)を整備する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	27,891	1,705				
		(b) 予算現額	30,134	1,550				
		(c) 増減額 (b-a)	2,243	▲ 155				
		(d) 繰越額	－	－				
		A. 計 (b+d)	30,134	1,550				
	B. 執行済額		30,134	1,513				
	うち交付金充当額		24,106	1,210				
	次年度繰越額		－	－				
	執行率 (％) (B/A)		100.0%	97.6%				
	予算の状況の説明		入札の結果、当初予算より費用が抑えられたため、12月議会において155千円の予算減額を行った。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度		
	電子黒板の整備	目 標	(41台整備)	(電子黒板の整備)	()	()		
		実 績	41台整備	電子黒板の整備				
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
	達成 状 況 説 明	電子黒板を入札により整備することができた。 今回整備したことにより、デジタル教材が有効に活用され、児童生徒の学習意欲も向上したと考えられる。						
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
		電子黒板の整備	目 標	()	(整備完了)	(整備完了)	()	()
			実 績		整備完了	整備完了		
デジタル教材の活用できる授業での活用率 60%		目 標	()	()	(60%)	()	()	
		実 績			65%			
進 捗 状 況 説 明		鳩間小中学校において、転入等による学級の増加に伴い、電子黒板が不足していたため、小中にそれぞれ1台ずつ電子黒板を整備した。 また、電子黒板を導入したことによるデジタル教材の活用率も、小学校で63パーセント、中学校で68パーセントとなり、小中の平均で65パーセントとなり目標値を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・今後他の学校においても学級増に伴う整備や、理科室等の特別教室への電子黒板の整備が必要となることが予想される。 ・整備後の電子黒板の有効活用についても、教員のITリテラシーの向上が必要不可欠である。	・今後の計画を策定し、計画的に整備する必要がある。 ・整備後の有効活用のため、ICT支援員派遣や、教員への研修を実施し、ICT機器の活用率を向上させるよう努力する。
今後の取り組み方針		
・学校と今後の整備計画について協議する。 ・「3-② 学校ICT支援員派遣事業」と組み合わせ、ICT支援員派遣や、教員への研修を引き続き実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
1,513	1,513	1,210	303	0

竹富町
1,513千円

→

備品購入費
766千円

↘

(株)オキジム
1,513千円

→

備品購入費
747千円

↗

(株)オキジム
1,513千円

→

鳩間小学校 1台
鳩間中学校 1台
合計2台 電子黒板整備

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先の業者は指名競争入札で決定し、実績のある企業である。選定は妥当だったと考える。 ○予算については、当初の計画に即した内容・規模となっている。 ○委託業者については、契約及び仕様のとおり実施されており、事業目的に必要な費目・使途であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	竹富町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4－①	竹富町和牛生産推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア		
担当部課名	農林水産課		事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備		
	Ⅲ－1－(6)							
事業内容	優良母牛の導入支援(購入費の1/2以内上限60万円)及び口蹄疫の進入防止対策を実施し、本町基幹産業である農業畜産の生産基盤整備、環境整備を強化することで産業の振興を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	15,524	19,884	28,647	49,700	47,216	
		(b) 予算現額	15,524	31,884	47,248	49,695	55,322	
		(c) 増減額(b-a)	0	12,000	18,601	▲ 5	8,106	
		(d) 繰越額	0	0	0	－	0	
		A. 計(b+d)	15,524	31,884	47,248	49,695	55,322	
	B. 執行済額		14,290	29,526	40,817	44,459	50,755	
	うち交付金充当額		11,432	23,621	32,653	35,566	40,604	
	次年度繰越額		0	0	0	－	0	
	執行率(%) (B/A)		92.1%	92.6%	86.4%	89.5%	91.7%	
予算の状況の説明		導入補助の申請によっては助成額が異なるので、当初予算額から3,539千円の増額を行なったが、執行率は約9割超えであるため、適切な執行ができたと考える。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況				
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	・離島港湾靴底消毒用マット設置6カ所(竹富・小浜・黒島・波照間・西表東部・西表西部)	目 標	(消毒用マット設置)	(消毒用マット設置)	(消毒用マット設置)	(消毒用マット設置)		
		実 績	消毒用マット設置4カ所(竹富・小浜・黒島・波照間)	消毒用マット設置	消毒用マット設置	消毒用マット設置		
	・優良遺伝繁殖雌牛導入支援	目 標	(導入助成)	(導入助成)	(導入助成)	(導入助成)		
		実 績	導入助成	導入助成	導入助成	導入助成		
	達成状況説明	町内の港湾6箇所にて靴底消毒用マットの設置し、防疫対策を講じた。 また優良遺伝繁殖雌牛の導入費を一部助成したことで、98頭を導入することができ、竹富町畜産牛のブランド力の向上を図った。						
	成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値(年度)	27年度	28年度	29年度
・離島港湾靴底消毒用マット6箇所設置の完了 ・優良遺伝繁殖雌牛導入支援71頭 (H33年度迄導入目標750頭: H24～27年449頭導入)		目 標	()	(142頭)	(6箇所90頭)	(6箇所71頭)	()	
		実 績		125頭	90頭	98頭		
【H30成果目標】 導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合		目 標	()	()	()	()	1.22%以上	
進捗状況説明		・離島港湾施設に靴底消毒用マットを設置し防疫対策を図った。 ・優良遺伝繁殖雌牛導入の目標が当初95頭であったが、当初通り98頭の導入ができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・年々沖縄県は子牛の数は増えているが、全国的にはまだ子牛数が少ないことから、ここ数年間子牛のセリ価格が高値で取引している状況が続いているため、現在の導入農家に対する補助額が高すぎないか検討が必要である。	・購入費用の補助額の再検討を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
・近年の子牛セリ高価格の現状を鑑み、適切な補助額の決定をするため、農家や組合等を交えて検討していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
50,755	50,755	40,604	10,151	0

竹富町
50,755千円

委託料
2,176千円

個人業務委託者6名
2,176千円

防疫対策にかかる業務委託料
(竹富・黒島・小浜・波照間・西表東部・西部)

消耗品費
162千円

防疫対策にかかる
消毒剤等購入費

補助金
47,490千円

導入農家
47,490千円

優良遺伝繁殖雌牛導入
にかかる補助金

委託料
927千円

沖縄県農業協同組合
927千円

優良遺伝繁殖雌牛導入
業務等にかかる補助金

資金の 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業務者は各地区肉用牛生産組合で勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ・子牛の価格の高騰が続く中ではあるが、予算的には妥当な金額であったと考える。 ・受益者負担は2分の1であるが今後検討する必要がある。 ・費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	竹富町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4－②	竹富町ペット適正飼養・鳥獣保護推進事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－1－(1)－ア			
					生物多様性の保全			
担当部課名	政策推進課	事業実施 (予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－10－(1)			
事業内容	本事業は、国の特別天然記念物であるイリオモテヤマネコの保護を目的に、世界自然遺産登録候補地であり国立公園でもある西表島の生態系や生物多様性の保全推進を図るために、島内のペットの適正飼養の推進と併せて傷病鳥獣の保護救命を行なう。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	6,004	6,175	7,622	8,574	8,574	
		(b) 予算現額	6,001	7,622	7,622	8,574	8,574	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 3	1,447	0	0	0	
		(d) 繰越額	0	0	0	－	－	
		A. 計 (b+d)	6,001	7,622	7,622	8,574	8,574	
	B. 執行済額		6,001	7,622	7,622	8,574	8,574	
	うち交付金充当額		4,800	6,097	6,097	6,859	6,859	
	次年度繰越額		0	0	0	－	－	
	執行率 (％) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100%	100%	
	予算の状況の説明		事業計画どおり執行を行った。適正な予算措置であったと考える。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	・逸出ペットの保護収容	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
		実 績	実施	実施	実施	実施		
	・収容個体の各種ウイルス検査等	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
		実 績	実施	実施	実施	実施		
	・ペット適正飼養推進会議の開催	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
		実 績	実施	実施	実施	実施		
	・適正飼養普及啓発講演会の開催	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
		実 績	実施	実施	実施	実施		
	達成 状況 説明	住民からの情報をもとにノラネコの保護収容を実施した。 保護収容された個体でマイクロチップによる所有者の判断ができないネコについては、西表島に常駐派遣した獣医師によるウイルス検査や避妊去勢の措置後、島外に移送した。 ペット適正使用推進会議を開催し、関係機関で今後の対策について協議を行った。 イリオモテヤマネコの保護啓発イベントでの講演や、ワクチン注射やウイルス検査を利用した普及啓発活動を実施した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	・逸出ペットの保護収容数5頭減(10頭) (基準年度:H23年度15頭)	目 標	(15頭)	(10頭以内)	(10頭以内)	(10頭以内)	(10頭以内)	
		実 績		15頭	14頭	12頭		
	・収容個体の各種ウイルス検査等全頭	目 標	()	()	(検査等全頭 実施)	(検査等全頭 実施)	()	
		実 績			検査等全頭実施	検査等全頭実施		
	・啓発講演会等の4回開催完了	目 標	()	()	(講演会等 4回実施)	(講演会等 4回実施)	()	
		実 績			講演会等 6回実施	講演会等 4回実施		
	・ペット適正飼養推進会議の開催完了	目 標	()	()	(会議の開催 完了)	(会議の開催 完了)	()	
		実 績			会議の開催完了	会議の開催完了		
	進 捗 状 況 説 明	保護収容されたノラネコは、年々減少傾向があるものの、目標頭数を僅かに上回っている。 保護収容されたノラネコから感染症のウイルスは確認されていない。現在まで、野生のイリオモテヤマネコにもペット由来の感染症は発生していない。 ペット適正飼養推進会議では、さらに取り組みを強化すべき課題についての話し合いが行われた。 普及啓発のための講演については、関連する事業に合わせて実施し、自然環境保護の意識向上につなげた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・ノラネコの保護収容に関しては、目撃される場所が限定的になりつつあるので、そこに集中する何らかの理由があるならば、それを明らかにする必要があると思われる。 ・新たにネコを西表島に持ち込む際の手続きについての周知が不十分で、必要な措置が遅れるような事例があった。 ・完全な屋内飼育を普及させたいが、暑さ対策として開放的な住居が多いことが支障になっている。	・ノラネコの目撃箇所で集中的に保護収容を実施するとともに、そこにノラネコが繁殖するような環境要素がないか確認する必要がある。 ・新たなネコの持ち込み時に適切な措置をしてもらうためには、今現在ネコを飼っている飼主だけではなく、より広く一般に周知されている事が必要と思われる。 ・住宅事情に左右されずに屋内飼養を徹底するためには、屋内飼養ゲージの使用を普及促進する必要がある。
今後の取り組み方針		
・引き続き、ノラネコの目撃情報を収集し、目撃個所で集中的に保護収容を実施するとともに、ノラネコが繁殖するような環境がないか情報収集を強化するために、地域住民との協力体制の強化を図る。 ・西表島にペットを持ち込む際に必要な措置についての周知を強化する必要があるが、船舶会社や観光関連事業者の協力も得ながら、西表島の玄関口となる港湾施設等での取り組み強化を図る。 ・住宅事情に左右されない屋内飼育用ゲージによる完全屋内飼育を推奨していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>8,574</td><td>8,574</td><td>6,859</td><td>1,715</td><td>0</td></tr></table> 竹 富 町 8,574千円 ⇒ 委託料 8,574千円 ⇒ NPO法人 どうぶつたちの病院沖縄 8,574千円 西表島内の飼い猫の適正飼養に係る普及啓発及び逸失ペットの保護収容業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,574	8,574	6,859	1,715	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,574	8,574	6,859	1,715	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は随意契約であったが、業務に関する実績や知識、実施体制等を勘案して選定している。選定については妥当であったと考える。 ○見積書による予算に即して事業を実施。適正規模であったと考える。 ○事業完了時に事業目的の達成を確認しており、支出も適正であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	竹富町														
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】															
事業番号・事業名	4－③		文化財保全事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章－1－(4)－ア						
									沖縄の文化の源流を 確認できる環境づくり						
担当部課名	教育委員会総務課			事業実施 (予定)年度		平成24～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		Ⅲ-3-(2)					
事業内容	本町の有する多くの文化財美化保全を推進し、本町特有の歴史文化や景観を恒久的に維持し、歴史文化財資料及び観光資源として利活用し地域振興を図る。														
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)														
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()														
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算 の 状 況				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度						
			(a) 当初予算額		3,005	2,994	2,930	2,930	2,800						
			(b) 予算現額		3,005	2,930	1,930	2,694	2,800						
			(c) 増減額 (b-a)		0	▲ 64	▲ 1,000	▲ 236	0						
			(d) 繰越額		0	0	0	0	0						
			A. 計 (b+d)		3,005	2,930	1,930	2,694	2,800						
			B. 執行済額		1,570	1,515	1,547	2,694	2,799						
			うち交付金充当額		1,256	1,212	1,237	2,154	2,239						
			次年度繰越額		0	0	0	0	0						
			執行率 (％) (B/A)		52.2%	51.7%	80.2%	100.0%	100.0%						
		予算の状況の説明		適正な予算執行であったと考えている。											
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)				達成状況										
					26年度		27年度		28年度		29年度				
	指定文化財14箇所の美化保全清掃の実施				目 標	(国指定文化財:4箇所 県指定文化財:1箇所 町指定文化財:8箇所)		(国指定文化財:4箇所 県指定文化財:1箇所 町指定文化財:8箇所)		(13箇所)		(14箇所)			
					実 績	国指定文化財:4箇所 県指定文化財:1箇所 町指定文化財:8箇所		国指定文化財:4箇所 県指定文化財:2箇所 町指定文化財:8箇所 国登録文化財:1箇所 その他の史跡:6箇所		21箇所		24箇所			
					目 標	()		()		()		()			
					実 績										
達成 状 況 説 明		竹富地区の公民館に文化財を11箇所・年26回、祖納地区の公民館に6箇所・年4回、波照間地区の公民館に3箇所・年9回、鳩間地区の公民館に3箇所・年4回、黒島地区は高所での作業であったため業者に委託し、文化財1ヶ所年2回実施した、集落内外、観光地等場所によって実施回数に差があるが、委託することにより高所作業箇所を除き、地域住民の手によって地域の文化財等の美化保全を実施できた。													
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)				基準値 (年度)		27年度		28年度		29年度		目標値 (30年度)		
	指定文化財14箇所の美化保全清掃完了				目 標	()		(国指定文化財:4箇所 県指定文化財:1箇所 町指定文化財:8箇所)		(13箇所)		(14箇所)		()	
					実 績			国指定文化財:4箇所 県指定文化財:2箇所 町指定文化財:8箇所 国登録文化財:1箇所 その他の史跡:6箇所		21箇所		24箇所			
	【H30成果目標】 文化財を活用して行う史跡めぐりの実施5回(5地域年1回程度開催)				目 標	()		()		()		()		実施5回	
	進 捗 状 況 説 明		美化保全作業を行った指定文化財をととして、地域の住民及び来町する観光者に本町の文化財を理解できる環境を提供することができた。												

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	文化財の愛護意識を地域で高めてもらうため、地域公民館が実施主体となり、住民自らの手による文化財等美化保全活動を実施すべきと考えるが、地域住民だけでは間に合わない場所や時期がある。	引き続き地域住民が主体となって美化保全を実施すべきと考えるが、地域住民の手だけでは間に合わない場所や時期については他の業者委託によって効果的に目的を達成できる文化財もあると考えられるので、地域住民とも調整しながら、実施箇所や実施方法を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
今後は、地域住民とも調整しながら、効果的な目的を達成するために業者委託し、また観光関連業者と連携を図ることにより観光者の視点も取り入れ、文化財のさらなる利活用を促進したい。 また、美化保全事業を実施する文化財が、なるべく長期間にわたって見学に適した状況が維持できるよう、実施時期や実施方法を検討していく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>2,799</td><td>2,799</td><td>2,239</td><td>560</td><td>0</td></tr> </table> 竹富町 2,799千円 委託料 2,799千円 竹富公民館 1,020千円 波照間公民館 470千円 祖納公民館 660千円 鳩間公民館 390千円 株式会社 紫電舎 259千円 竹富島内文化財の清掃業務等委託 波照間島内文化財の清掃業務等委託 西表島祖納地区内文化財の清掃業務等委託 鳩間島内文化財の清掃業務等委託 黒島内文化財の清掃業務等委託					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,799	2,799	2,239	560	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,799	2,799	2,239	560	0										
資金の流 れ・費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先については、計画どおり地域公民館に委託して実施した。地域の文化財愛護意識の高揚を図るという観点から妥当と考えている。 ○観光客が見学するため美化保全が必要な箇所で実施を計画しており、予算規模は適正と考えている ○事業は精算払いで、費目・使途が事業目的に即したものが確認し、適切に支出した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	竹富町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-④	ピサダ道保存整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－ア		
				沖縄の文化の源流を 確認できる環境づくり				
担当部課名	教育委員会総務課		事業実施 (予定)年度	平成26～29年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(2)	
事業内容	観光地としての魅力を向上するため、石段の復元工事を実施する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(30年度)							
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	6,001	16,663	2,839	13,200		
		(b) 予算現額	5,981	16,504	2,700	11,668		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 20	▲ 159	▲ 139	▲ 1,532		
		(d) 繰越額	—	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	5,981	16,504	2,700	11,668		
	B. 執行済額		4,287	16,484	2,700	11,665		
	うち交付金充当額		3,430	13,187	2,160	9,332		
	次年度繰越額		0	0	—	0		
	執行率 (％) (B/A)		71.7%	99.9%	100.0%	100.0%		
	予算の状況の説明		契約額が予定より低かったため不要額が出たが、当初計画していた事業内容は、ほぼ実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適切な事業執行であったと考えている。					
	活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況			
			26年度	27年度	28年度	29年度		
・石段遺構復元工事の実施		目 標	()	()	()	(実施)		
		実 績				実施		
【参考】 ・遺構確認調査の実施		目 標	(測量調査・ 実施設計の実施)	(保存修理工事 実施)	(調査実施 計画作成)	()		
		実 績	(測量調査・ 実施設計の実施)	(保存修理工事 完成)	(調査実施 計画作成)			
【参考】 ・遺構復元工事計画の作成		目 標	()	()	(計画作成)	()		
		実 績			計画作成			
【参考】 遺構復元方法の検討委員会開催		目 標	()	()	(開催)	()		
		実 績			未開催			
達成 状況 説明		戦時中に砲台を運ぶために石段を石敷きの坂道にされていたが、28年度に実施した石段遺構の確認調査と当時を知る住民からの聞き取りにより石段遺構の復元ができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況		H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度
	・石段遺構の復元完了	目 標	()	()	()	(復元完了)	()	
		実 績				復元完了		
	【参考】 ・遺構確認調査の完了	目 標	()	(工事の完了)	(調査完了)	()	()	
		実 績		工事の完了	調査完了			
	【参考】 ・遺構復元方法の検討委員会の開催完了	目 標	()	()	(委員会完 了)	()	()	
		実 績			委員会完了			
	【参考】 ・工事計画作成完了	目 標	()	()	(計画作成完了)	()	()	
		実 績			計画作成完了			
	【H30成果目標】 観光客・地域住民に魅力が向上したか (80%以上)を含め、当該事業のあり方をア ンケートで検証する。	目 標	()	()	()	()	80%以上	
	進 捗 状 況 説 明	石段遺構復元完了により観光資源として文化財の活用が図れる。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	遺構復元工事後に、観光資源として、どのように活用を図るか検討する必要がある。	地元住民の理解を得ながら、集落内にあるほかの文化財と一緒に史跡めぐりコース等を作成し、活用を図る。
今後の取り組み方針		
文化財史跡めぐりを実施し、ピサダ道を魅力ある観光資源として周知を図っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位: 千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
11,665	11,665	9,332	2,333	0

竹富町
11,665
千円

委託料
11,665千円

→

有限会社 ティガネー
11,665千円

ピサダ道保存整備事業
竹富町指定史跡ピサダ道保存復元工事

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○当該史跡の調査実績のある業者を選定しており妥当だと考えている。 ○予算規模については、不要額があったが適正と考えている。 ○費目・使途が事業目的に即したのか確認し、適切に支出した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	